

検証 豊栄市の上水道



豊栄市の上水道って六十年以上の歴史があるのね。

ぼくらが小さい頃に豊栄市の上水道についてみてみよう

毎日の飲料水はもちろん、洗濯、風呂、トイレと私たちの暮らしに欠かせない水道。

近年、ベッドタウンとして新潟市などから引っ越してくる人が増える中で、豊栄市の水道料金が低いのに驚いたという声が多く聞かれます。

今年6月、市が行った第四次総合計画策定のため市民アンケートの1,241通の回答の中で、自由意見として最も目立ったのが、この水道に関する要望でした。

果たして豊栄市の上水道料金はそんなに高いのでしょうか。高いとしたらなぜなのでしょう。

今回は豊栄市の上水道について考えてみたいと思います。

豊栄市の上水道のあゆみ

昭和五年に給水を開始

豊栄市の上水道は、旧葛塚町が昭和五年に給水を始めたのが最初です。新潟市・長岡市・旧高田市・新発田市について県内では五番目に古い歴史があります。

当時の水源は地下水で、法花鳥屋の浄水場からヒューム管で葛塚と嘉山の約三百世帯に送水していました。

昭和二十年以降、給水戸数が増加したことなどにより、水源の地下水の水質が悪化し、水量も不足して、給水が行き詰まりました。そこで、最初の拡張計画が立てられ、取水井戸を大規模にし、ろ過の早い施設に変えるなどの改良工事が施されました。給水区域も旧葛塚町全域と旧長浦村の土地亀地区まで広がりました。(第一次拡張事業)

長戸呂浄水場の建設

第一次拡張事業の結果、水質は良くなりましたが、給水区域も広がり、地下水のままではその後の拡張計画の予定水量が確保できそうにありませんでした。このため、水源を阿賀野川に求めることとし、長戸呂に浄水場を建設し、昭和三十五年に給水を開始しました。また、岡方・長浦地区にも給水することとなりました。(第二次拡張事業)

に次の拡張計画に取り組みなければならなくなりました。

深刻化する水不足

市としては、長戸呂浄水場の拡張が必要で、そのためには新たに水利権を得なければなりませんでしたが、当時の財政状況では困難でした。

この時期、県企業局により東港臨海工業地帯の工業用水道計画が立てられ、それに合わせて東港背後地の豊栄市・新潟市・新発田市・紫雲寺町・聖籠町の三市二町共同による上水道供給事業が計画されていました。長戸呂浄水場の拡張ができない以上、市としては、この事業の中で給水量を増やすのが最もよい方法でした。しかし、県企業局はすでに稼働していた、新井郷川を水源とする工業用水に十分余裕があることから、昭和五十二年に通水する計画

を延期してしまいました。

水不足が深刻となっていた豊栄市は、この計画の早期実現を求めると共に、早急な増水が必要となり、暫定的に長戸呂浄水場での取水増加の許可を受けながら施設運営を行いました。

水不足解消のために

昭和五十年代に入り、さらに人口増加が予想される中で、抜本的な拡張計画が必要でした。その上、昭和五十三年八月には濁水期の阿賀野川に海水がそ上して塩水クサビ現象が発生。長戸呂浄水場での取水ができなくなり、市内全域で五十二時間にも及ぶ断水となりました。このため陸上自衛隊まで出動しての給水作業が行われる緊急事態となりました。

このような状況下、昭和五十三年から五か年で実施されたのが第六次拡張



↑昭和53年の塩水クサビ現象による断水。給水車による給水が行われ、市民の生活に大きな影響が出ました。

張事業です。簡易水道の水質悪化による上水道への移行や長期的な水需要に対処するため、新潟東港地域水道用水供給企業団から内島見配水場にすぐに飲める水を送り、主に新井郷川より北側全域に供給するというものでした。この事業によって、市内全域が給水可能地域となるとともに、豊栄市はようやく水不足から解消されることになったのです。

財政の健全化に向けて

第六次拡張事業の総事業費は三十四億四千九百万円で、財源の大部分は起債でした。この事業によって水不足は



↑川での大根洗い(昭和30年頃) 上水道ができるまでは、川が主な水源でした。川に沿って伝染病が発生することも多く、上水道の普及が急がれました。

人口急増と水不足

昭和四十年代初めころから、早通や葛塚周辺に新興住宅地が形成され、人口が急増したことにより、水不足が深刻化しました。また、新潟地震の影響によって新潟市濁川・松浜地区の地下水の水質が悪化し、地盤沈下も激しく、新たな水源を求めることも不可能なため長戸呂浄水場から給水してほしいという申し入れがありました。そこで新潟市と共同で第四次拡張事業に乗り出すこととなりました。昭和四十八年に完成したこの事業により、計画給水量は一日当たり一立方メートルになりました。しかし、昭和四十年代後半に入り、第二次ベビーブームや早通団地・尾山団地などの造成により、豊栄市の人口は飛躍的に増加します。予想をはるかに上回る人口増加のため、市ではすぐ

解消されましたが、第二次オイルショックの影響などによって、人口増加は予想を大きく下回り、また、新たに拡張された地域では、自家水道から上水道に切り替える世帯が意外に少なく、水道料による収益は思ったように伸びませんでした。このため、債務の返済は重くのしかかり、昭和五十八年度末には、累積赤字が二億八千万円余りにもなっていました。

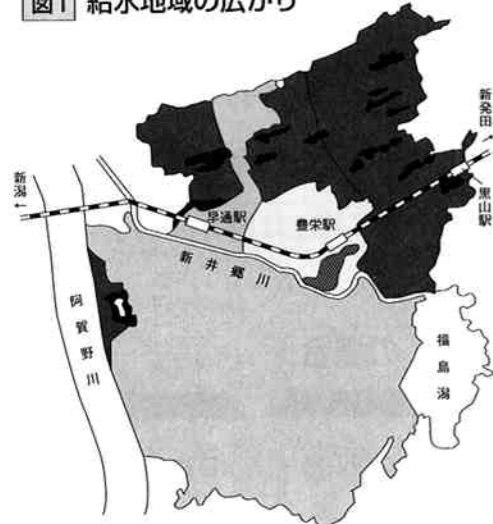
そこで、昭和五十八年度から十か年計画で財政再建が行われるとともに、平成元年には消費税の導入に合わせて水道料金の引上げが行われ、現在までに赤字はほぼ解消されています。

一方、古くからの給水区域では、配水管の老朽化による漏水や生活様式の変化による水需要の増加で水の出が悪くなるという新たな問題も発生しています。

豊栄市と上水道のあゆみ

年	主なできごと
昭和5年	○旧葛塚町で水道の送水開始。(法花鳥屋に井戸を掘り、ポンプの力で家庭に送る 給水地区: 嘉山・葛塚)
30年	●葛塚町・木崎村・岡方村が合併、豊栄町を新設 ○第1次拡張事業開始(33年完成給水地区: 旧葛塚町全域・旧長浦村上土地亀地区)
33年	○第2次拡張事業開始(38年完成給水地区: 長浦岡方地区) ●豊栄町に長浦村を編入
35年	○長戸呂浄水場が完成。(水源を地下水から阿賀野川に変更)
39年	○第3次水道拡張事業開始(40年完成)
44年	○第4次水道拡張事業開始(48年完成) 新潟市と共同で長戸呂浄水場を拡張・尾山団地・早通団地に給水
45年	●市制を施行、豊栄市となる
48年	○新潟東港地域水道用水企業団東港浄水場の工事開始(58年完成新潟市・新発田市・紫雲寺町・聖籠町との共同事業)
51年	○第5次拡張事業開始(53年完成)
53年	○第6次拡張事業開始(58年完成) ○阿賀野川に海水がそ上し、塩水クサビ現象発生。52時間にわたって市内全域で断水。
56年	○東港浄水場から内島見排水場を通じて送水開始
58年	○10か年の財政再建計画を開始。
平成元年	○平均6.4パーセント(消費税3パーセントを含む)の水道料金値上げを実施。

図1 給水地域の広がり



■昭和5年に給水開始 ■昭和44年に給水開始
□昭和32年に給水開始 ■昭和57年に給水開始
■昭和38年に給水開始 ■簡易水道の地域



※水利権とは……河川、溪流の流水、溜池など公水一般を継続的排他的に使用する権利。河川から新たに取水する場合には、その河川の管理者である建設大臣等の許可を得なければなりません。